

島根県の地震

平成30（2018）年10月

・震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は暫定値です。後日、再調査のうえ修正されることがあります。

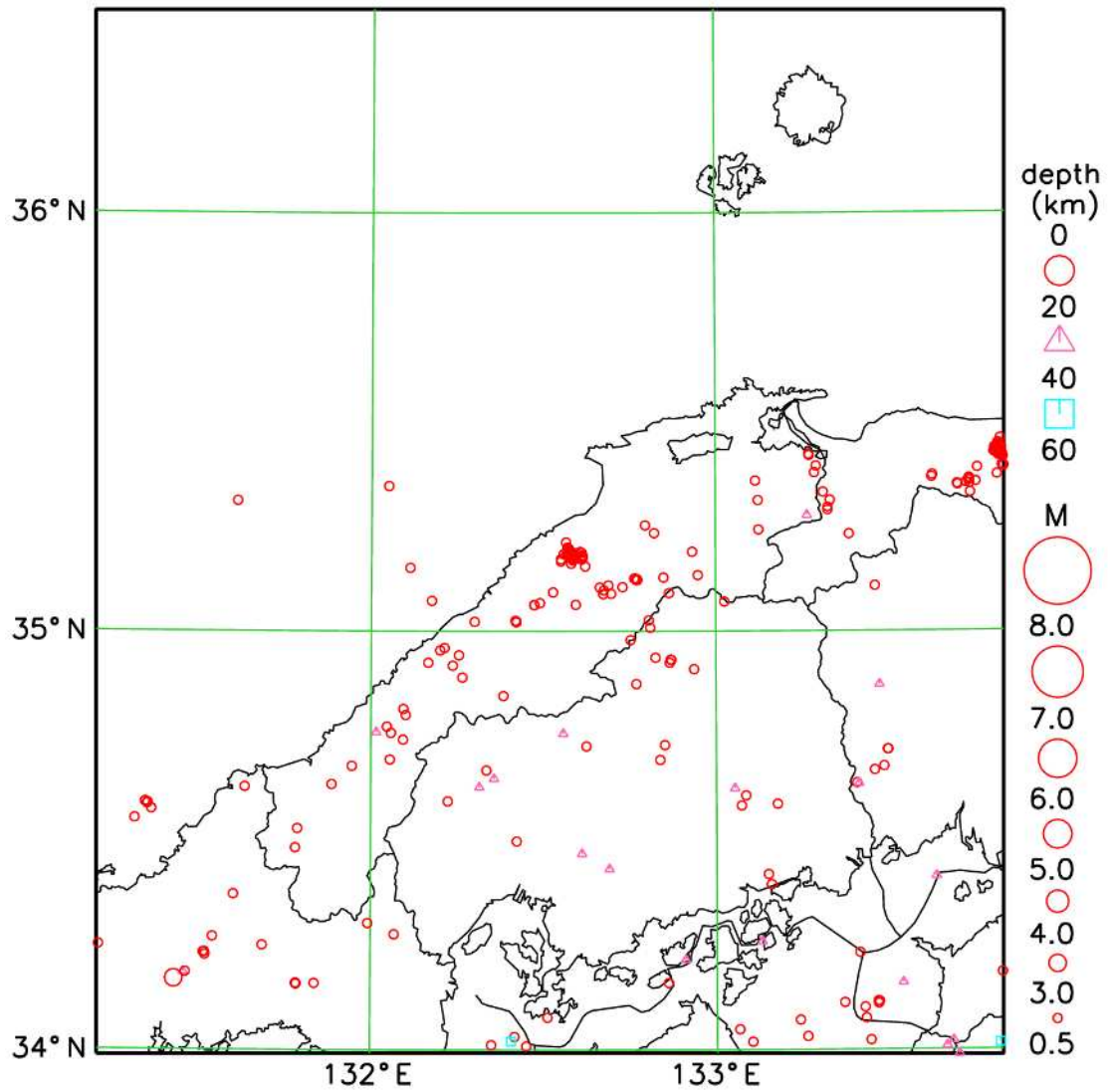
・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを基に作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを利用しています。

松江地方気象台

島根県およびその周辺地域の地震活動 2018年10月1日～31日

2018 10 01 00:00 -- 2018 10 31 24:00

N=285

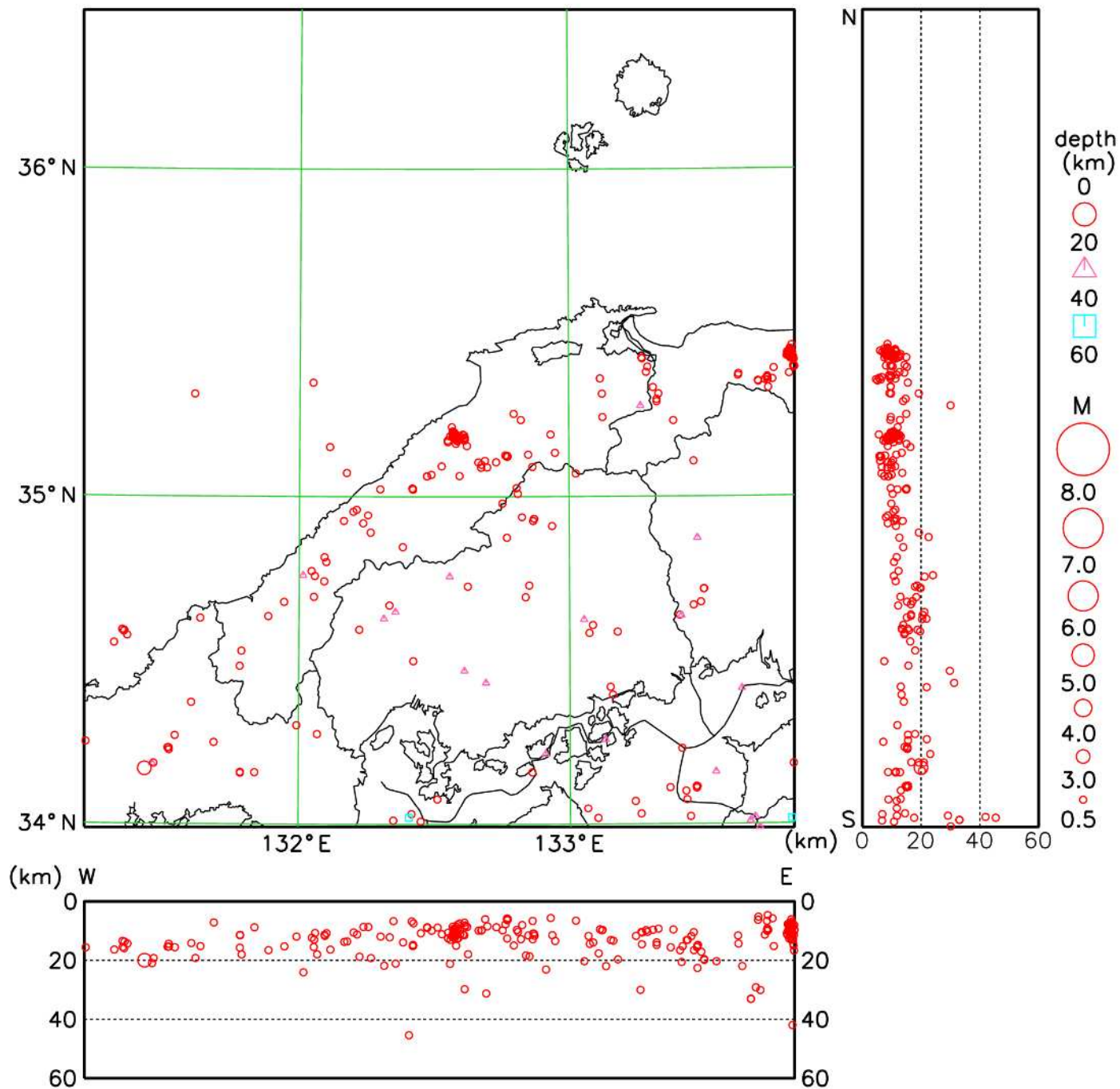


[概況]

今期間、M0.5以上を観測した地震は285回（9月は294回）でした。
また、島根県内で震度1以上を観測した地震は、ありませんでした。

[断面図]

2018 10 01 00:00 -- 2018 10 31 24:00



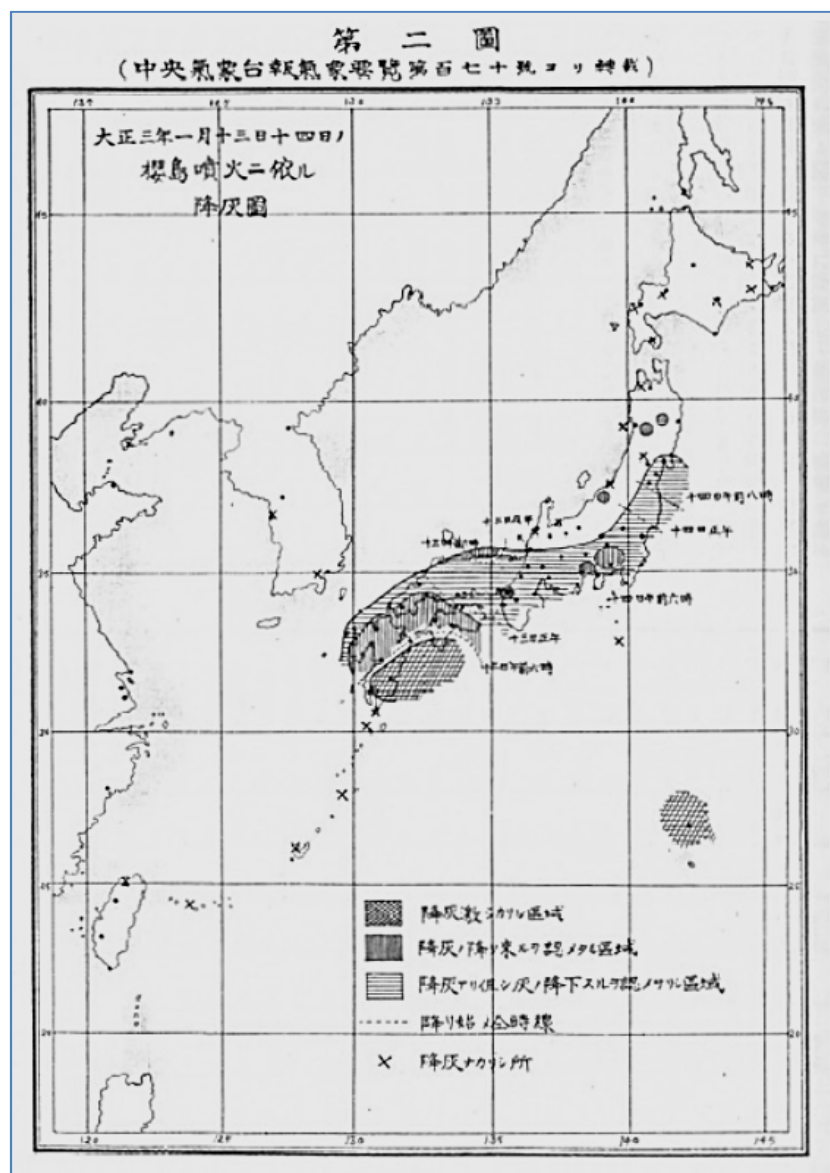
桜島の大正噴火、島根県にも降灰

大正3年（1914年）1月、桜島で大噴火が起きました。噴煙は上空1万メートルにも達し四国・中国・近畿から東北地方で降灰が観測されました。

下図は、「中央气象台気象要覧 大正3年」から抜粋した桜島の大正噴火による降灰図です。島根県にも火山灰が飛んできたことがわかります。

降灰の厚さが1ミリ程度であっても交通障害や農作物被害、健康被害が想定されます。

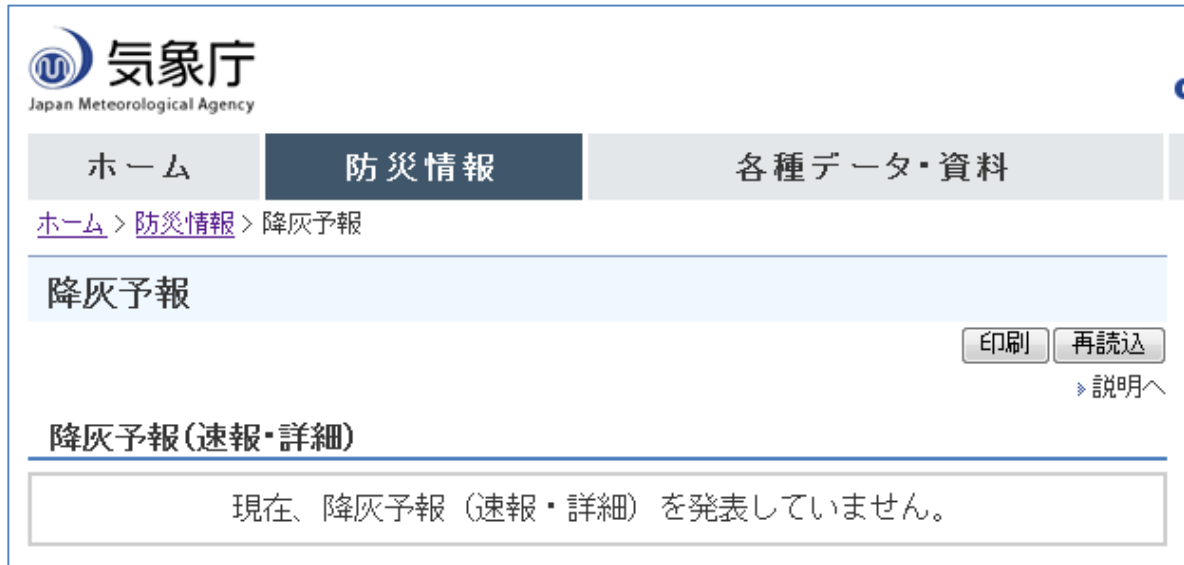
日本には、火山噴火予知連絡会により選定された111の活火山があります。活火山とは、「概ね1万年以内に噴火した火山及び現在活発な噴気活動のある火山」と定義されています。島根県には三瓶山、山口県には阿武火山群の活火山があります。両火山とも有史以降の活動はありません。しかし、全国には現在活動中の火山があり、日本では少なくとも概ね100年に一度は大規模噴火（噴出量10億 m^3 以上）が起っています。その大規模噴火は1914年の桜島の大正噴火以来、約100年間起っていませんが、「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」後の日本は、三陸沖で大きな地震が発生し火山活動が著しく活



発であった9世紀の状況に似ているとの指摘もあります。このため、今後、いつ大規模噴火が起ってもおかしくない状況にあることを認識する必要があります。

気象庁では火山噴火後に、どこに、どれだけの火山灰が降るかについて降灰予報を発表しています。島根県でも、降灰被害はいつか発生するとの意識を持って、備えることが大切です。

降灰予報については、以下の気象庁ホームページでご覧いただけます。



気象庁
Japan Meteorological Agency

ホーム 防災情報 各種データ・資料

ホーム > 防災情報 > 降灰予報

降灰予報

印刷 再読込

▶ 説明へ

降灰予報(速報・詳細)

現在、降灰予報（速報・詳細）を発表していません。

<https://www.jma.go.jp/jp/ashfall/index.html>

出典

- 1 「新たなステージに対応した防災・減災のあり方平成27年1月 国土交通省」国土交通省ホームページ
<http://www.mlit.go.jp/saigai/newstage.html>
- 2 「全国の活火山の活動履歴」気象庁ホームページ
http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/vol_know.html#rireki